令和２（2020）年度高校生の地域活動に関する調査研究

実践事例にみる地域と連携した
学習機会創出のヒント

令和３（2021）年３月

栃木県総合教育センター

はじめに

少子高齢化、人口減少、地域の人間関係の希薄化が進むとともに、グローバル化、IoT や AI 等の高度情報化の急速な進展等により将来の予測が困難といわれる時代の中で、子どもたちには、社会の中で自らの人生をたくましく切り拓いていくことが必要とされています。そのため、学校には社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力や、社会の形成に主体的に参画するための資質・能力を子どもたちに身に付けさせることが求められています。

栃木県教育委員会では、令和３年度から令和７年度までの５年間に本県教育が取り組むべき施策を、「栃木県教育振興基本計画 2025」としてまとめました。その基本施策の一つに、「社会に参画する力を育む教育の充実」を挙げ、社会を形成する一員として必要な判断力や実践力等を育み、よりよい世界の構築に向けて、主体的に社会に参画する力を育成することとしています。

昨年度、当センターが行った「地域課題に関する意識・行動調査」「地域課題の解決に関する取組状況等調査」の結果から、活動を希望する高校生は７割にのぼり、自分たちが活動できる地域団体の情報を求めており、高等学校では、生徒に対する地域活動の場に関する支援やサポートを求めていることが分かりました。

そこで今年度は、高校生の地域活動の充実を図るため、高校生が地域活動に取り組みやすい環境の整備に視点を当て、調査研究を進めました。地域とつながり多様な活動をしている事例や各校の専門性を生かした事例、また学校教育以外で高校生が活動できる環境をつくっている事例の中から、特色ある取組を対象とし、地域連携教員や地域活動担当教員、市行政職員に協力いただき、ヒアリング調査を行いました。

その結果を本冊子にまとめましたので、各校で地域活動に取り組む際の資料として役立てていただければ幸いです。また、今回の調査研究の成果を今後の研修や会議等で積極的に情報発信し、高校生の地域活動参加促進の一助としたいと考えております。

最後に、本調査研究を進めるにあたり、御助言いただきました宇都宮大学地域デザイン科学部石井大一朗研究室をはじめ、調査への御協力をいただいた各学校、市町教育委員会、その他関係諸機関等の皆様に厚く御礼申し上げます。

令和３（2021）年３月

栃木県総合教育センター　所長　大島　政春

＊目　次＊

はじめに

第１章　調査研究の概要
　1　調査研究の経緯　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
　2　調査研究の目的　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2
　3　調査研究の方法等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

第２章　「高校生の地域活動」の実践事例
　1　鹿沼高等学校　・・　4
　2　日光明峰高等学校　・・　5
　3　小山北桜高等学校　・・　6
　4　鹿沼東高等学校　・・　7
　5　栃木工業高等学校　・・　8
　6　とちぎ高校生蔵部　・・　9
　7　YAITA ALL DIRECTIONS（YAD）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　10

第３章　ヒアリング調査結果と考察
　1　ヒアリング調査結果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　11
　2　考察　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　12

おわりに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　13

参考資料等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　14

　大学生の声「高校時代の地域活動」
　ヒアリング調査票

第１章　調査研究の概要

１　調査研究の経緯

高等学校学習指導要領が平成 30（2018）年 3 月に改訂され、移行期間を経て令和 4（2022）年度から年次進行で施行される。その中で、予測困難な時代を生き抜く力をもった子どもを育むため、社会に開かれた教育課程のもと、社会と連携・協働した教育活動を充実させることが求められている。

昨年度は、高校生や高等学校の地域課題への意識や取組状況等を把握するため「地域課題に関する意識・行動調査」「地域課題の解決に関する取組状況等調査」（令和 2（2020）年３月）を実施し、地域・社会への課題認識や、その課題解決に向けた活動・学習の現状について分析を行った。

その結果、高校生は、地域活動に関してメンバー募集を行っている地域団体や実際に活動ができる場所の情報を求めていることが分かった[＊1]。また、高等学校では、地域活動資金・機材や生徒に対する地域活動の場の提供に支援を求めていることが分かった[＊2]。

そこで、今年度の調査研究では、高校生の地域活動への参加を促す効果的な方策を探るため、県内の高等学校における地域課題への積極的な取組のうち、地域とつながり多様な活動をしている事例や各校の専門性を生かした事例、また学校教育以外で高校生が活動できる環境をつくっている事例に着目し、ヒアリング調査を行うこととした。

＊１　表Ｉ「必要な支援・サポートの比較〔高校生〕」

問　どのような手助けがあると、さらに活動に取り組みやすくなると思いますか。	
メンバー募集を行っている地域団体の情報提供	37.4%
実際に地域活動をできる場所の紹介	29.5%
同じような活動をしている人や団体同士の交流の機会	25.0%
地域活動を行っている団体の紹介	24.1%
地域活動の資金や必要な物品の支援	22.5%

＊２　表Ｊ「必要な支援・サポートの比較〔学校〕」

問　どのようなサポートがあると、地域課題に関する活動が円滑に進むと思いますか。	
地域活動資金・機材の支援	32.5%
生徒に対する地域活動に関する学びの場の提供	30.1%
教職員に対しての地域活動に関する意識の向上に資する学びの場の提供	26.5%
行政等機関との連携	26.5%
地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介	25.3%

2　調査研究の目的

(1) 事例から高校生が地域活動に取り組みやすい環境の整備に資する方策を探り、県内高等学校、特別支援学校、社会福祉協議会、市町教委生涯学習課、公民館等での高校生の地域活動を促す取組の充実を図る。

(2) 各学校が地域活動を取り入れる際に、有効と考えられる各事例に共通する方策を探る。

(3) 高等学校等と地域の多様な機関とが連携した事例を収集し、学校・地域の双方から高校生の地域活動を進めるための参考とする。

3　調査研究の方法等

(1) 調査対象

学校教育の中で地域とつながり多様な活動をしている取組や各校の専門性を生かした取組５事例、学校教育以外で高校生が活躍できる環境をつくる地域の取組２事例について調査を行った。

調査対象１（学校）

No	ヒアリング調査先	
1	鹿沼高等学校	地域連携教員
2	日光明峰高等学校	地域活動担当教員
3	小山北桜高等学校	地域活動担当教員
4	鹿沼東高等学校	地域連携教員
5	栃木工業高等学校	地域連携教員

調査対象２（地域団体）

6	とちぎ高校生蔵部 （栃木市教育委員会事務局生涯学習部生涯学習課）	市社会教育担当職員
7	YAITA ALL DIRECTIONS（YAD） （矢板市経済建設部　商工観光課）	市事業担当職員

(2) 調査方法

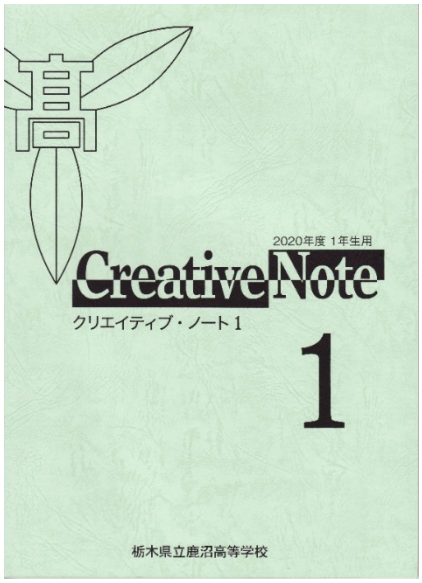
ア　調査内容

地域活動の状況や地域活動を進める上での成果・課題、地域活動を効果的に展開するための方策等について事前に調査票を送付し、その記載に基づいてヒアリング調査を行った。

イ　調査期間

令和２（2020）年８～９月

第２章　「高校生の地域活動」の実践事例



クリエイティブ・ノート
（鹿沼高等学校）

日光の伝統料理
（日光明峰高等学校）

うずまの竹明かり
（栃木工業高等学校）

かんぴょうまつりでのかんぴょうの実入り
アイスの販売　　（小山北桜高等学校）

地元素材を使った積み木のプレゼント
（鹿沼東高等学校）

鹿沼高等学校の取組

【特色】市役所の全面的な協力のもと、平成 28 年度から「栃木県立鹿沼高等学校未来発展プラン」の一環でスタートしたクリエイティブ・フォーラム（鹿高型課題解決学習プログラム）を探究活動として行っている。課題の発見とその解決に向けて、主体的・対話的で深い学びの実践を図り、「思考力・判断力・表現力」の育成を目指している。

取組事例

○クリエイティブ・フォーラム（鹿高型課題解決学習プログラム）

・「総合的な探究の時間」を使った課題解決学習プログラム（1 年次小論文、2 年次地域課題解決学習）である。

・10 月の研究発表に向けて、４月に鹿沼市企画課より市の概要説明を受け、６月に生徒が作成した提案に対して各課からのアドバイスをもらい、夏期休業中に多くの人々に話を聞き探究の内容を深めている。

・プレゼンテーションなどの表現力向上に向けて、白鷗大学（平成 27 年度～高大連携協定）の協力により、大学生から指導を受けることとなった。

・「情報」の時間も活用しながら、２年次の内容を行っている。また、今年度より２年次の内容を１年次の後半から実施している。

・活動後は、今後の活動に生かすためにｅ-ポートフォリオへ記録している。

○家庭科の授業での保育体験学習

・市をとおして保育園に依頼し、平成 11 年度から放課後に家庭クラブの活動として、希望者が保育ボランティア活動をさせてもらっていた。その後発展させ、授業の中での保育体験学習に形を変え実施していたが、時間調整が困難なことから、ボランティア部を中心に希望生徒が参加する形に戻している。

○部活動をとおした地域活動

・地域からの要望は多いので、内容に応じて参加できる部が活動している。ボランティア部は平成 25 年度から活動をしている。

・生徒の参加については、全ての活動において、保険に加入している。

地域活動による効果・成果

生徒の変容

○生徒は、地域の中で多くの人と関わり、自ら何ができるのかを考えて行動するようになっている。そして、これらの活動を学びの場と感じ取り、充実感を得ている。

○総合的な探究の時間で、自分たちの研究について発表（プレゼンテーション）し、地域課題解決に向けた提案ができた。

学校への効果

○参加生徒の取り組む姿を見て、次年度以降も、継続して活動を依頼する地域の方が多い。地域からの依頼については、同窓会・ＰＴＡの協力によるところが大きい。

地域活動がうまくいっている要因

○校内では、学習指導部の係や地域活動に関わる教員が中心に行っているが、２年次の学習内容で地域の協力が必要となり、対外的な全体調整を鹿沼市生涯学習課と連携し行うことで、活動が軌道にのっている。

○高大連携協定により、プレゼンテーション力の向上のため、大学生が指導している。

活動しやすい環境整備のポイント

・地域連携教員が担当教員と情報を共有・相談し、学年全体で取り組める体制をつくることにより、多様な地域活動の展開につながる。

・地域連携教員が中心になり、時期が合わずに断っている地域活動の調整をすることで、活動の実践につなげるようにする。

・地域での活動情報を生徒に伝え、自主的に活動できる時間を確保できるように調整することで、生徒の自主性を生かせる活動につながる。

日光明峰高等学校の取組

【特色】日光市社会福祉協議会をコーディネーターに、行政（日光市）、自治会（周辺４自治会）、小学校（安良沢小学校）、中学校（日光中学校）、民間団体（清風塾）、社団法人（交通安全協会）、二社一寺、NPO 団体（足尾に緑を育てる会）等と連携し、「学校×地域連携プロジェクト」として活動している。

取組事例

○継続的な活動

・常時行っているのは、安良沢小学校での読み聞かせボランティア、特別養護老人ホームへの福祉施設訪問・介護体験、福祉ボランティア、足尾植樹活動等である。

・生徒と交流したいという地域の方々からの声に、どのように応えるか検討するため、定期的に地域連携係が校内での話合いの場を設けたり、地域の方にも参加してもらう代表者会議を年に４回程度実施したりしている。

○「総合的な探究の時間 ESN（Education for Sustainable Nikko）」

・自分たちの住むまちが、今後どのように変化していくかという問題の重要性を意識させ、地域課題解決に対する当事者意識を高められるようにしている。

・SDGs の説明について、日光市生涯学習課から指導してもらっている。

○郷土芸術の授業

・地域の方から「日光彫り」の指導を受けている。

○地域行事

・東照宮の例大祭へ参加している。

○サロン活動

・有志生徒を募って放課後に地域の方々と交流するサロン活動を行うなど、授業･行事にとどまらない形で学校の教育活動に組み入れている。

・伝統料理や地産地消メニューを地域の方から教えてもらい会食している。また、茶道のお点前体験や歌の交流会を実施するなど、交流を深めている。

地域活動による効果・成果

生徒の変容

○地域のいろいろな人と話をする中で「まちづくり」の視点をもち、日光をよりよいまちにしていきたいという思いを強めた。また、郷土愛的な視点をもつ生徒が増えた。

学校への効果

○学校の情報を発信することで教育活動に対する地域の理解が深まり、地域の住民から声をかけてもらえる機会が増えた。地域の方々は、自分のまちの学校として関心をもってくれている。

地域活動がうまくいっている要因

・学校運営協議会で意見や協力を募る等、地域との関係を密にすることが、地域住民等の学校運営への参画と教育活動等への支援の一体化につながっている。

活動しやすい環境整備のポイント

・多くの生徒の活動参加を目標に全体計画を作成し、授業等でも活動することにより、生徒全員が地域活動に参加する、有意義な地域活動となる。

・学校の情報を紹介した「明峰だより」を配付して地域へ学校行事の情報を提供し、参加呼びかけ等を行うことにより、あらゆる年代や業種の地域住民に幅を広げた地域活動につながる。

・市やコーディネーターと相談し計画立案することにより、サロン活動を目的化することなく、生徒への教育的効果や地域への貢献を踏まえた地域活動につながる。

小山北桜高等学校の取組

【特色】「歴史とロマンのかんぴょう街道推進協議会」の協賛会員となったことを機に、総合ビジネス科にかんぴょうの情報誌作成とＰＲ活動への参加依頼の話があり、協力することになった。総合ビジネス科の生徒で構成されたビジネス研究部を立ち上げ、商業に関する課題を設定し、調査及び研究活動を行うことを目的に活動している。

取組事例

○組織的な取組

・学科連携行事として、毎年秋に櫻プロジェクト（５学科連携による販売実習）を実施している。

・近隣の小学校や特別支援学校との交流活動を行っている。

・インターンシップやインターンシップ地域連絡協議会を実施している。

○総合ビジネス科

・「歴史とロマンのかんぴょう街道推進協議会」と連携し、かんぴょう街道のＰＲ活動やＰＲパンフレットの制作、かんぴょうを使用したアイスの商品開発等を行う中で、様々な業種の方と関わっている。

・休日や放課後は部活動として、イベント等の地域活動に参加している。

・流通ビジネスコースの授業の一環として、会議やイベント等に参加することもある。

・ビジネス研究部の１年間の活動をまとめ、毎年７月に栃木県生徒商業研究発表大会で成果発表している。

○園芸科学科（食料環境科）

・渡良瀬遊水地のクリーン活動や外来植物の駆除作業等に参加している。

○造園土木科（食料環境科）

・環境ボランティア（足尾銅山植樹活動、渡良瀬遊水地での環境保全活動）等を行っている。

○生活文化科

・「小山和牛入りかんぴょうカレーパン」や「小山評定開運焼き」の販売等を行っている。

地域活動による効果・成果

生徒の変容

○地域の様々な年代の方々と触れ合いながら活動することで、コミュニケーション能力が高まるとともに、地域に貢献する喜びを感じることができた。

○自分からアイディアを出し、行動を起こすことで、積極性や問題解決能力を身に付けることができた。

学校への効果

○地元の企業と協力し、地域活性化のために連携する関係性が構築できた。

地域活動がうまくいっている要因

・キャリア教育で、地域で必要とされる人材はどのような人材なのかを考えさせたり、自分の将来を具体的にイメージさせたりすることで、「活動への関心」が「活動すること」につながるようにしている。また、地域貢献活動が自分と自分が住んでいる地域を豊かにすることや、様々な年代と関わることで自分が成長できることをイメージさせている。

活動しやすい環境整備のポイント

・教育課程に地域活動を授業として組み入れるようにすることで、生徒も最初は義務的であっても、参加して自分が変わっていくことに気付いたり、新しいことをしてみようと考えたりする機会が増えてくる。

・学校として目指すべき教育の在り方を家庭や地域と共有することで、教育活動の充実につながる。

・放課後や土曜日等で、地域の人的･物的資源を活用し活動している。

鹿沼東高等学校の取組

【特色】地域に関わる探究活動を模索する中、鹿沼市生涯学習課からの紹介で、特定非営利法人「かえる舎」との連携が始まった。３年間の「総合的な探究の時間」で「地域の未来を自ら拓くことのできる人材の育成」を目的に実践していこうと決定し、「幼稚園に地元の素材を使った遊具をプレゼントする。」という具体的目標を設定して活動した。

取組事例

○総合的な探究の時間

・「鹿沼市の伝統産業の木工」を探究の題材に、地元の産業に目を向け、感じ、考え、伝えていこうという取組が始まった。

・園児のために、どんな遊具があったら楽しんでもらえるか、自分たちで仮説を立てていった。

・最終的には、鹿沼の木工を利用したアルファベットの積み木を、生徒たちも手伝いながら作成して幼稚園に届けた。

・総合的な探究の時間の係の生徒たちが、どうしたらクラスメイトが迷わず作業できるか、自分たちのクラスにはどのような進行が適切かを考えながら、授業のマネジメントを行った。

○鹿沼市のオープンファクトリー

・毎年５月に実施していた鹿沼市のオープンファクトリーに１学年の生徒全員が参加し、地元企業のものづくり等について、実際に目にすることで地域の産業を知ることができた。

○幼稚園での保育実習

・家庭科の時間を利用し実施した。学年を班分けして幼稚園に行き、園児の活動の様子からどのようなことに困っているか、どんな遊具が求められているかを真剣に考えた。

○地域活動のヒントとするためのゲストトーク

・かえる舎の協力で、栃木県だけでなく山梨県でも活動している実業家の方たちによるゲストトークを実践した。

・仏像等の修繕を行う職人や伝統料理のしもつかれ調理者、何代も続く老舗味噌屋、新たな介護のあり方を模索する福祉事業者等、多くの人々の「仕事のあり方」についての考え方を学ぶことができた。

地域活動による効果・成果

生徒の変容

○生徒たちに目的を意識させしっかりとした役割を与えることで、自分たちで考えて行動することができた。

○伝統産業の継承や活性化に関わる人々と接することをとおして、「世の中に貢献すること」や「活動に価値を見出すこと」について、生徒なりに感じることができた。

学校への効果

○地域での活動は生の体験にあふれ、現場ならではの情報と出会うことができた。

地域活動がうまくいっている要因

・行政や地域との連携体制を構築していたことにより、新たな情報を得ることができ、多様な地域活動の実践につながっている。

・鹿沼市をとおすことで、外部団体との連携がスムーズに進んでいる。

活動しやすい環境整備のポイント

・学校の中で核となる地域連携教員等が地域活動を計画立案し、各教員に伝えることで、地域活動の趣旨を教員が理解して、互いに協力し合えるようになり、より効果的な地域活動につながる。

・市役所等行政との連携を密にすることにより、多様な地域活動につながる。

・地域活動の中から芽生える自主性や想像力（創造力）は、与えられた課題ではなかなか実感できないことを職員全体で理解する。

・「関心・意識」を「活動参加」につなぐために「とにかくやってみる」ことも大切である。

栃木工業高等学校の取組

【特色】「県立高校未来創造推進事業」の地域資源活用プロジェクトの一つであった「テクニカル・リペア活動」を引き継ぎ、平成 28 年度より工業高校の専門性を生かし、テクノボランティアの名称で活動を継続している。また、「高校生未来の職業人育成事業」として、栃木市内小学生に技術指導を行い、世代間交流を含むキャリア教育を行っている。

取組事例

○「課題研究」の授業(３年生)

・テクノボランティアとして、３年生の「課題研究」の授業において、栃木市内小中学校に出向き依頼品の修理等に取り組んでいる。今年度の依頼校数は 14 校であった。

○出前授業

・栃木市内中学校を対象に、本校職員及び生徒が出前授業を実施している。機械科・電気科・電子科・情報技術科（電子情報科）の四つの科ごとに授業を用意し、中学校に内容を選んでもらう形式をとっている。どの授業も、各科の特色が出たものになっている。

・自校ブランド「こどもパソコン」（SkyBerryJAM）を用いたプログラミング出前授業を、栃木市内の小学校を中心に展開している。３年生の課題研究の授業や電算機部の活動と関連付けて行っている。

・栃木市教育委員会主催事業の小学生向け講座に協力をしている。ここ数年は情報技術科が協力して、「こどもパソコン」を用いたプログラミング講座を開講している。

○制作・修理活動

・うずまの竹明かり作成では、現在は有志の生徒の参加も加わり、活動を行っている。

・車いす修理ボランティアとして、栃木市内施設で修理活動を行っている。

○その他の活動

・栃木特別支援学校との交流会（福祉活動）を行っている。

・とちぎ高校生蔵部への協力をしたり、参加（有志）したりしている。

地域活動による効果・成果

生徒の変容

○生徒の自己肯定感や自己有用感の醸成ができ、生徒自身の大きな成長につながった。

○福祉活動では、障害のある方々の支援に自分たちの技術が役に立つことから、生徒の関心度が高く、持続可能な地域活動となっている。

学校への効果

○ESD（持続可能な開発のための教育）の実践につながった。また、地域（全国）からの学校信頼度アップやイメージアップができ、学校ブランド力や知名度が向上した。

地域活動がうまくいっている要因

・高校の専門性を生かした活動を必要とし、受け入れてくれる小･中学校等とのつながりを大切にすることで、持続可能な活動となっている。また、活動範囲を栃木市内としていることで、無理なく適切な活動を続けることができている。

・栃木市教委生涯学習課の支援により、生徒の活動の場を提供できている。

活動しやすい環境整備のポイント

・地域活動が一部教員だけの業務にならないように、活動の目標を共有した上で、各科の特色を出した出前授業を展開している。

・学校全体で取組内容を把握することで、より組織だった業務運営がしやすくなる。

・生徒が技術を生かして地域活動で役立つことにより、地域の関心が学校に向くとともに、生徒も自己肯定感を高めることができるので、魅力ある学校づくりと地域連携の一体化につながる。

とちぎ高校生蔵部（栃木市）の取組

【特色】学校の垣根を越えてボランティアやまちづくりに関心のある高校生が気軽に集い、同世代の仲間だけでなく大人とも語り合いながら、自主的な活動を展開し、様々な課題解決や栃木市のにぎわいの創出に寄与することを目的に活動している。また、地域イベントにボランティアとして参加したり、イベントブースの出展をしたりしている。

取組事例

○主催事業

・栃木市高校生合同文化祭（毎年９月中旬開催）に参加している。

・栃木の街散策マップ（日本語版、英語版）を制作している。

・栃木市伝統文化体験事業（座敷帚製作体験）を行っている。

・高校生イチオシ！蔵の街魅力ツアーを実施している。

○栃木市関連

・“あったか栃木"いじめ防止子どもフォーラム（グループコーディネーター）に参加している。

・FM くらら 857「Tochigi high school radio」でパーソナリティーを行っている。

○市内イベント

・渡良瀬バルーンレース（熱気球係留ボランティア）に参加している。

・栃木蔵の街かど映画祭（上映会場の運営、監督等のトークショー運営）に参加している。

・あそ雛まつり（子ども向けイベント）の企画運営をしている。

活動の効果

地域活動による効果・成果

○栃木市と市内高等学校が包括連携協定を結び、市と高等学校の連携の機会が増えた。

地域活動がうまくいっている要因

・学校と連携する際、高校の教員に活動趣旨を理解してもらうことや学校側から出る疑問点に対する丁寧な説明を心がけることにより、参加者を確保している。

・即効性のある取組ではないが、長期的に小さな活動を続けている。

・ボランティアサークル「とちぎ高校生蔵部 OBOG 会」を設立し、引き続きボランティアやまちづくりに関わりたい高校生の受け皿となっている。

活動しやすい環境整備のポイント

・栃木市ではとちぎ高校生蔵部を介して、多様なボランティア活動の機会の提供に努めることにより、活動希望があってもどこに相談したらいいのか分からず、行動に移せていない高校生の活動参加につながる。

・教員からの後押し「地域活動に行ってごらん。」により、生徒の主体的な地域活動参加につながる。

参加している生徒の声

・これから社会に出ていったときの考え方に関わる多くのことを知ることができるから、継続して参加しています。

・文化祭のようなイベントを企画することは楽しく、大人とつながれる貴重な機会になっています。

栃木市合同文化祭パンフレット

栃木の街散策マップ

YAITA ALL DIRECTIONS（YAD）（矢板市）の取組

【特色】第 14 回矢板武塾終了後、参加者のうち９名が団体設立を目指し活動を始めた。高校生が勉強したり、集まったりできる場所（通称：高校生カフェ）の開設が大きな目標で、高校生視点でまちなかのにぎわいをつくり出すための企画をしている。おすすめスポットを紹介する「まちあるきマップ」は、メンバーが実際に店舗を取材して作成した。

取組事例

○まちあるきマップの作成

・メンバーが実際に「まちあるき」をしてお店の方から取材し、高校生の目線を生かし、詳しく知りたいことや広く知らせたいこと等の情報を書き込み、みんなが活用しやすいマップを作成した。

○団体の PR 活動

・市内のイベントで団体の周知を図りながら、活動の輪を広げている。

・団体の PR 動画を作成している。

活動の効果

地域活動による効果・成果

○まちあるきマップの作成により、高校生が市内のお店に興味をもち訪れるようになった。

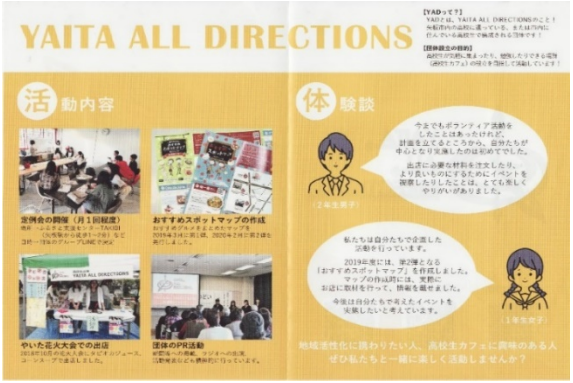
○単年度の活動目的を明確にしながら、高校生が活動に取り組むことができている。

地域活動がうまくいっている要因

・市の担当者が事業者とのやりとりを行うことにより、生徒は活動に専念できるようにしている。

活動しやすい環境整備のポイント

・担当者が情報を提供することにより、生徒主体で考えた活動につながる。



活動紹介パンフレット

まちあるきマップ

参加している生徒の声

・仲間と協力して、自分の住む地域のための活動に取り組むことにやりがいを感じています。自分たちの活動で、誰かが喜んでくれるのが嬉しいです。

・形のないものを一からつくることの大変さを知るとともに、地域という大きなコミュニティで何かを成し遂げるためのつながりが得られました。

・地域活動をとおして、地域コミュニティのあたたかさを実感し、地元愛が生まれました。

・活動をするのに、自分たちだけではなく様々な人の手を借りていることを実感しました。

第３章　ヒアリング調査結果と考察

１　ヒアリング調査結果

各事例から、高校生が地域活動に取り組みやすい環境を整備するための方策を探るため、以下の３つの項目から回答をまとめた。

(1) 地域活動が円滑に進んでいる要因

・学校全体での地域活動の目的や目標の共有・明確化
・多くの生徒が参加できる地域活動の全体計画の作成
・学校の中で核となる地域連携教員等による地域活動の計画・立案
・地域活動に関する意識向上の研修の実施
・教科や校務を越えた組織づくり
・地域連携教員等による連携窓口の設置
・市町の生涯学習やまちづくり担当課への働きかけ
・活動参加を促すための教員による言葉かけ･雰囲気づくり
・探究活動における多様な人との関わり
・学校運営協議会等における情報交換･共有
・魅力ある学校づくりと地域連携の一体化
・地域と学校をつなぐ機関・団体等との連携
・地域団体が連携した地域活動を行う際の学校側への丁寧な説明

(2) 地域活動を持続可能にしている要因

・学校全体での取組内容の把握と業務運営のための組織化
・地域連携教員と活動を担当する教員との情報共有、協力･相談体制づくり
・地域活動を受け入れてくれる小･中学校や社会教育施設等との連携
・地域の人的･物的資源の情報収集
・伝統産業に携わる人との関わり
・無理のない活動範囲での地域活動
・学校から地域への連携活動の参加･協力の呼びかけ
・同窓会や PTA とのつながり
・キャリア教育で、地域に必要な人材や自分の将来像をイメージしてからの活動
・地域でつくる高校生の活動機会の提供

(3) 地域活動を進める上での課題

・学校内における地域活動の趣旨の共通理解
・地域活動を授業に組み込んだ教育課程の作成
・教育的効果、地域への貢献を踏まえた計画・立案
・自主的に活動できる時間の確保

2　考察

今年度のヒアリング調査結果で得られた前述の 3 項目に対する回答内容を、昨年度の調査*で確認できた、生徒の地域活動の場を創出するために学校が課題としている「校内体制の整備」「行政や地域との連携体制の構築」という 2 つの観点と重ねて分析した。

その結果、「校内体制の整備」のためには、地域活動に関する意識向上の研修の実施、教科や校務を越えた組織づくり、地域連携教員と活動を担当する教員との情報共有、協力･相談体制づくりが効果的な方策であると認められた。また、「行政や地域との連携体制の構築」のためには、地域連携教員等による連携窓口の設置、地域の人的･物的資源の情報収集、学校から地域への連携活動の参加･協力の呼びかけ、市町の生涯学習やまちづくり担当課への働きかけ、地域と学校をつなぐ機関・団体等との連携が効果的な方策であると認められた。

さらに、今年度の調査から、生徒が地域の中で多くの人と関わることが、地域の一員としての意識向上や地域活動への主体的参加につながることが各事例に共通した成果として認められた。そこで、上記の 2 観点に加え、「多様な大人と接する機会づくり」という観点からも整理したところ、活動参加を促すための教員による言葉かけ･雰囲気づくり、地域でつくる高校生の活動機会の提供が効果的な方策として認められた。

調査事例では以下のような方策により、地域活動に取り組みやすい環境を整備していた。これらを参考にして、学校の実情に応じて取り組むことが効果的と考えられる。

(1) 校内体制の整備

ア　全校での目的や目標の共有・明確化

・日光明峰高等学校では、定期的に地域連携係による校内での話合いの場を設け、地域活動に関する目的を明確にし、共有するとともに、地域の方にも参加していただく代表者会議を設け実施したことで、地域との密接な関係を保っている。

イ　全校での組織的な取組による活動の充実

・日光明峰高等学校では、地域連携教員が企画・調整、年間計画の作成が行えるよう校務分掌上の配置を工夫し、協力・相談体制を整備するとともに、多くの生徒が参加できる活動の実施を目標に全体計画を作成することで、全校での組織的な取組としている。

ウ　担当する教員間の目標共有

・栃木工業高等学校では、栃木市内の中学校を対象とした出前授業に携わる教員間で活動の目標を共有し、明確にした上で、各科の特色を生かした出前授業を実施している。

(2) 行政･地域との連携体制の構築

ア　地域活動の継続化・活性化

・鹿沼高等学校では、鹿沼市教委生涯学習課や同窓会、ＰＴＡと連携をすることにより、継続的で充実した地域活動につながっている。

・小山北桜高等学校では、地域のまちおこし団体「歴史とロマンのかんぴょう街道推進協議会」と連携し、地域の物的資源であるかんぴょうを使用したアイスの商品開発等をとおして、地域の活性化に貢献している。

イ　新たなアイディアの発見・活動の開発

・鹿沼東高等学校では、「総合的な探究の時間」で鹿沼市教委生涯学習課をとおして NPO と連絡をとり、講師を紹介してもらうことで新たな活動につながった。そして、鹿沼の地場産業を理解し、次世代に伝えていく授業が実践できた。

(3) 多様な大人と接する機会づくり

ア　地域の一員としての意識向上

・小山北桜高等学校では、「歴史とロマンのかんぴょう街道推進協議会」と連携し、様々な業種の方と関わり、地域の活性化に取り組む中で自分からアイディアを出し、行動を起こすことができるようになり、地域の一員としての意識向上につながった。

・鹿沼東高等学校では、伝統産業の継承や活性化に関わる人々と接することをとおして、「世の中に貢献すること」や「活動に価値を見出すこと」について、生徒が感じとり、地域の一員としての意識をもつことができた。

イ　地域活動への主体的参加

・栃木工業高等学校では、障害のある方々の支援に自分たちの技術が役に立つことを実感できることから、車いす修理ボランティアに対する生徒の関心度が高く、持続可能で主体的な地域活動となっている。

様々な地域活動をとおして、生徒の自己有用感や地域の一員としての当事者意識などを育むことができるようになることから、学校内で地域活動の趣旨を理解し、地域連携教員を中心に協力体制を整えていくことが大切だと考える。

また、生徒自身に自分にあった地域活動を体験させるには、多様な地域活動に関する情報提供、教員からの地域活動参加への勧めや後押しも重要だと考える。

＊「地域活動の参加促進に向けて～地域課題に関する調査研究～」概要・総括編
報告書　（令和２（2020）年３月）P15　オ　地域課題に関する活動を進めるための課題と必要な支援について

おわりに

新学習指導要領では、予測困難な時代を生き抜く力をもった子どもを育成するため、社会に開かれた教育課程のもと、社会と連携・協働した教育活動の充実が求められている。地域と関わりながら身近な課題の解決に取り組むことは、生徒の社会参画意識を高めることにつながる。よって、各学校においては地域と連携した学習機会を創出し、生徒に様々な課題の解決に取り組ませることが必要となる。

そこで、生徒に社会を形成する一員として必要な判断力や実践力、郷土愛を身に付けさせるため、今回の事例を参考に、各学校の実情に応じて地域活動と総合的な探究の時間などとの関連を図りながら、地域活動のよりいっそうの充実に努められるよう願っている。

なお、調査研究の成果としてリーフレットを作成し、関係各所に配布するので御一読いただきたい。また、当センターで実施する地域との連携・協働の中核となる地域連携教員を対象とした研修での活用を図り、高校生の地域活動参加促進について働きかけていきたい。

参考資料１

大学生の声「高校時代の地域活動」

以下は、大学で地域活動について学ぶ学生に自身の経験を聞く機会があり、昨年度の調査から分かっていた「地域活動への関心・意識」から「実際の地域活動への参加」に至る間に存在する３つのバリアの打開策について答えてもらったものである。

○活動の３つのバリア

(1)時間のバリア

・授業時間に組み込んで活動できるとよいと思います。

・活動時間はなかなかとれないので、環境を整えて学校や家庭で時間をつくることが大切になってくると思います。

(2)同調性のバリア

・地域に勉強の場や居場所があれば、地域の人や友人と関わりながら勉強することができ、そこで得た関係や情報をもとに地域の活動参加につながります。

・活動に参加することで、大人との出会いや自分がやりたいことが見つかることがあります。

(3)情報のバリア

・担任の先生からの情報提供があったから地域活動に参加することができました。親身になって、後押ししてくれました。

・自分だけではどのような活動があるのか、そしてどのような活動が自分に合うのか分かりません。学校からの地域情報が参加のきっかけになります。（タブレット等の端末を使っての情報提供等も有効）

・大学入試では、人物評価が重視されているので、そのことを高校生みんなが知ることが大切です。「主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性等）」を評価する入試への転換、「志願者本人が記載する書類」「面接」「集団討論」「プレゼンテーション」等

参考資料２－１　対象：学校教育の中で地域とつながり多様な活動をしている取組

令和２（2020）年度　総合教育センター生涯学習部調査研究事業
「高校生の地域活動に関する調査研究」　ヒアリング項目

学校名：＿＿＿＿＿＿＿＿　　回答者：職名＿＿＿＿　名前＿＿＿＿＿＿＿＿

１　地域活動状況の概要について
※取り組むことになった経緯や連携の形態
※学校（授業・行事等）にどう組み入れられているのか
※具体的な事例内容
※地域活動を進める上での成果と課題

２　地域活動を持続可能にしている要因や工夫について
※組織的に取り組んでいること
※地域に向けて実施していること
※地域課題解決に対する当事者意識を高めていく工夫

３　地域活動の今後の在り方について
※学校の関わり方
※より効果的に展開するために必要なこと
※改善点（この部分を改善すればさらによい活動になるという視点で）

４　その他
※活動を実現するために、公民館や自治会等がどのような関わりをしているのか。
※生徒の意見や感想等もあれば、お聞かせいただければ幸いです。

参考資料２－２　対象：各校の専門性を生かした取組

令和２（2020）年度　総合教育センター生涯学習部調査研究事業
「高校生の地域活動に関する調査研究」　ヒアリング項目

学校名：＿＿＿＿＿＿＿＿　　回答者：職名＿＿＿＿　名前＿＿＿＿＿＿＿＿

１　地域活動状況の概要について
※取り組むことになった経緯や連携の形態
※放課後・休日の学校活動、地域系部活動等にどう組み入れられているのか
※具体的な事例内容
※地域活動を進める上での成果と課題

２　地域活動を持続可能にしている要因や工夫について
※組織的に取り組んでいること
※地域に向けて実施していること
※「関心・意識」と「活動参加」との間に介在するバリアを取り除く工夫

３　地域活動の今後の在り方について
※学校の関わり方
※より効果的に展開するために必要なこと
※改善点（この部分を改善すればさらによい活動になるという視点で）

４　その他
※活動を実現するために、公民館や自治会等がどのような関わりをしているのか。
（関わりがあればお聞きしたいと考えております。）
※生徒の意見や感想等もあれば、お聞かせいただければ幸いです。

参考資料２－３　対象：学校教育以外で高校生が活躍できる環境をつくる取組

令和２（2020）年度　総合教育センター生涯学習部調査研究事業
「高校生の地域活動に関する調査研究」　ヒアリング項目

所属：　　回答者：職名　　名前

１　高校生（個人）が参加した地域機関の地域活動の概要
※連携を始めた経緯・連携の形態
（学校の枠ではなく、組織に個人の意思で参加をしている。）
※組織を立ち上げるのに、どう参加しているか。
※参加の仕方等
※具体的な事例内容
※地域活動を進める上での成果と課題

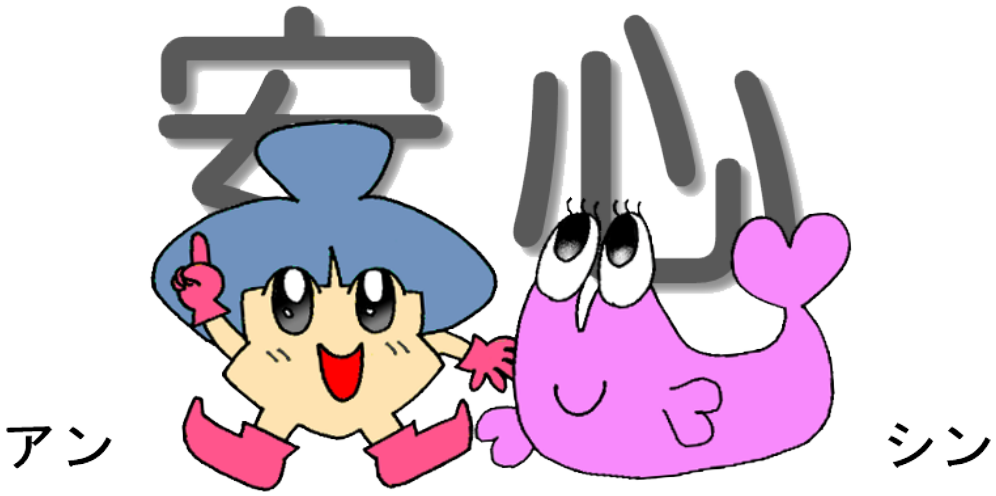
２　地域活動が円滑に進んでいる要因や工夫について
※組織的に取り組んでいること
※地域に向けて実施していること

３　地域活動の今後の在り方について
※高校生の地域活動を定着するための工夫
※より効果的に展開するために必要なこと
※高校生への情報提供について
※多様な大人や社会との接点をもうける工夫

４　その他
※活動を実現するために、公民館や自治会等がどのような関わりをしているのか。
（関わりがあればお聞きしたいと考えております。）
※生徒の意見や感想等もあれば、お聞かせいただければ幸いです。

本報告書は、とちぎレインボーネットでも御覧いただけます。

https://www.tochigi-edu.ed.jp/rainbow-net/reserach



高校生の地域活動に関する調査研究

実践事例にみる地域と連携した
学習機会創出のヒント

令和３（2021）年３月

編集・発行　栃木県総合教育センター

〒320-0002　栃木県宇都宮市瓦谷町 1070
栃木県総合教育センター生涯学習部
TEL　028-665-7206　　FAX　028-665-7219
URL　https://www.tochigi-edu.ed.jp/rainbow-net/